

国連人権理事会 58 会期：テクノロジーは障がい者をサポートするものでなくてはいけない

2025/03/10

国連人権高等弁務官事務所

ヴォルカー・ターク国連人権高等弁務官は、障がい者の権利に関する年次討論において次のように述べた。「テクノロジーは障がい者に大きな可能性をもたらすが、多大なリスクも伴う。リスクは大きく分けて次の2つに分けられる。1つ目に、テクノロジーは攻撃、差別、排除の新たな場をつくり出しているというリスク。無法地帯のように感じられることが多いデジタル世界において、ネット上でのいじめは凶悪な暴力である。そのようないじめは急速に広がり、昼夜問わず標的になる人を見つけ、社会的排除と孤立をもたらす。このような行為は、今日の世界ではあってはならない。2つ目に、「私たち抜きで私たちのことを決めるな」というモットーは、意味のある参加という考えを世に広めたが、依然として、障がい者はテクノロジーの設計や実施に関する重要な会話から取り残されているというリスク。また、一部のテクノロジーは男性によって、男性のために設計されている。デジタル化と技術革新は、障がい者とともに、障がい者のために設計される、インクルージョンのためのツールでなければならない」。